

会報 わかくさの風

No.12

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

**共生社会を目指して、
障害のある人たちの声を発信していきます**

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様、新しい年をどのように
迎えられましたでしょうか？私は毎
年、近くの公園の小高いところから、
初日の出を見ます。住宅街が一面赤

くなり、大きく燃えるような深紅の
太陽がグングン昇ってきます。いく
つかの感謝とお願い、決意を心に刻
むように、日の出の太陽に向かって
手を合わせます。

願いのひとつに戸田わかくさ
会があります。今年には社
会保障の財源確保との関係で社
会保障制度は縮減されることが
はつきりしています。また、最
近の福祉政策は、「地域」包
括的ケア「総合的支援」をキ
ーワードに大きく転換しています。
さらに今年には社会福祉法人改革
の実施の年でもあります。社会
福祉法人は大きな節目を迎えま
す。

このような激動の年の中で、
変えてはいけないことがあります。
それは「二人ひとりが豊かに
暮らす」ことを目指す福祉の
精神です。このために、法人は
どのようなことを目指していく
のか、それは法人が掲げる二つ
の理念「ナーマイゼーション
の実現」「二人ひとりが豊かに

暮らせる地域社会の実現」に向けて
着実に活動を積み上げていくことで
す。

利用者をしっかり支えていくこと
を礎にしながら、私たちは利用者の
声を、障害のある人たちの声を発信
していきたいと考えています。昨年
は第2回戸田わかくさ会まつりを開
催することができました。利用者の
方がいろいろな場面で活躍しまし
た。また、大勢の方々の出演、協
力をいただき盛大に開催することが
できました。紙面を借りてご協力に感
謝申し上げます。このようなイベ
ントも発信のひとつです。さらにわか
くさの「戸田市友好都市美里町の野
菜販売」など昨年から新しい取り
組みもそのひとつです。

このような活動を通して共生社会
を築いていくために、法人は頑張っ
てまいりますので、引き続きのご指
導、応援を心からお願い申し上げま
す。
皆さまにとって健康に恵まれた一
年でありますように、心からご祈念
申し上げます。

理事長 横山 ユタカ
統括施設長 竹嶋 紘



特集

わかくさ会まつり開催!!

晴天の中開催

第2回戸田わかくさ会まつりは12月3日（土）に戸田市立芦原小学校にて開催されました。当日は寒い朝でしたが、天候にも恵まれ楽しい一日を過ごすことができました。第1回目のわかくさ会まつりは平成25年9月に実施していましたが、実に3年ぶりの開催ということとなります。



さて、会場をわかくさから芦原小学校に移しましたが、ご存知のように校舎は大変斬新なつくりとなっていて、会場をみて驚いた方もおられると思います。1階と2階をお借りし、広くスペースを利用すること

ができました。当日は早々と準備にかかり、9時30分よりアリーナにて開会式が行われました。

たくさんのお応援

戸田市長はじめ市議会議長、社会福祉協議会会長、戸田蕨福祉会事務局長の皆様にお越しいただき祝辞をいただきました。さて、10時からステージ上で招待団体の催しが始まりました。ティンカー☆ベル 知的障害者のハンドベル演奏）、小槌会 知的障害者の和太鼓）、SAYミュージズ 小沼さん（親子）、そして埼京戦隊ドレレンジャーの出演。ドレレンジャーはいつも子どもさんに大人気です。ドレレンジャーだけでなく、悪役ともなかよくなりました。やはり戸田市のヒーローですね。今回は



大学生のボランティアの方にも協力していただき、二人のピエロのパフォーマンス（ダリーティング）がとても好評でした。

みなさんの協力

二階では模擬店がずらりと並びそれぞれいろいろな食品を販売しました。たくさんのお客様に来ていただき販売するほうもうれしい悲鳴をあげていたようです。

今回はわかくさの創作活動展示や野菜販売、もくせい園の製



品販売、スマイラ松原さんの製品販売と、ご協力いただいた施設のみなさんありがとうございました。

模擬店といえば調理をする方々がいるわけですが、今回は1階の外で影日向になり調理をしていたいた皆さんおかげでおいしい食べ物をおいしくいただきました。

みなさんも気がついたでしょうか。今回、スタンプラリーを実施しましたが、このスタンプはわかくさ会の事業所の利用者さんが作ったものです。大変、かわいらしく、ユーモアのあるものになったと思いませんか。また、アリーナの一角にはダンボール迷路をつくりました。これも結構小さいお子さんが、楽しんで体験していましたので好評だったようです。

午後からも盛りだくさん

午後はインド舞踊、そしてわか





くさ、ゆうゆう、かがやきの利用者の出番です。それぞれ施設で考えたものを披露しました。わかくさはクイズを、ゆうゆうは朗読、かがやきはダンスを披露しました。また、今回の目玉とも言えるゆうゆうの飯田さんのピアノの演奏が始まるとシーンと静まり返り、一曲終わるごとに惜しみない拍手がおくられました。渚のアデリータ」やデイズニーの曲などなじみのある曲もあり本場にすばらしい演奏で特に最後のベートーベンも



曲は圧巻でした。こんなにすばらしい演奏はなかなか聴けません。最後の舞台はフラウエンコールの合唱ですが、舞台の皆さんと翼をください」の歌を全員で合唱しました。大変盛り上がりましたので、同じ歌をもう一度繰り返しました。一体感を味わえたのではないのでしょうか。

今回も大抽選会



最後は抽選会があり、それぞれすばらしい賞品をあてた方がいらっしゃいました。特に今回も特賞として遊輪ショップめぐ

ちさんから自転車を賞品として提供していただきました。ありがとうございました。

みなさんに支えられて

ところで、ここで忘れてならないのはボランティアの皆さんと後援会のみなさんの力です。それぞれ分担した場所で力を発揮していただきました。また、かがやきの利用者の皆さんにも開催時間中、

会場の清掃をしてもらいました。そういった協力があったからこそこのまつりが実施できたのだと改めて感謝するしだいです。ありがとうございました。

まつりの今後の方向性

わかくさ会まつりも楽しく盛会に終わりましたがすべてうまくいったわけではなく、課題もいくつか残りました。まつりのために法人では予算を組み執行しましたが、今回も個人や企業の協賛金をお願いしたところ、かなりの額が集まりました。本当に感謝いたします。

これをなくしてはかなり予算的にはきついものとなったと思われる。というのは、今回は会場を移したことで、規模を大きくするために予想外の出費ができました。協賛金は非常に助かりました。

地域交流の柱として

実行委員会としては、名前のとおり「わかくさ会まつり」と称しているのですが、「法人の主催している障害ある方々のまつり」ととらわがちですが、考えとしては法人だ

けでなく、そのほかの団体を包含したすべての障害のある人々、その関係者のまつりと位置づけたいと考えています。こ



のまつりは障害者と地域との交流を大きな柱としていますので、その点では他と一線を画したいところです。協賛金等も特定の人達に多大な協力をもらうのではなく、少ない金額を広く多くのご協力をいただきたいのです。そういう意味では協賛金については少なからず当初の目的を達したといえます。

今後に向けて

また、会場については芦原小学校の全面的協力を得ることができましたので、これは今回の成功につながりました。初めから理想像を追い求めすぎかもしれませんが、今後についても規模や会場の問題、利用者の参加の仕方等いろいろ考えて行く必要があるかも知れません。いずれは、戸田市全体の障害者のまつりのような形が理想ですが、いかがでしょうか。(鈴木)

各事業所のとりくみ

わかくさ

笑顔と真剣なまなざし

「パバンパバンパバンパバン♪ 野菜買ってねー! パバンパバンパバン♪ ぞら焼き美味しいよー!」
 ドリフのあの曲だ! 食堂を覗くと、そこには緑のハッピを着て、手を上下左右に動かす利用者と職員の間が、姿がありました。笑いながら、時には真剣な表情で振り付けの練習をしている。また、クイズの問題を何度も繰り返し読み、練習を重ねステージ発表にのぞみました。



当日、舞台上では緊張しながらも、キラキラした笑顔で観客を沸かせる利用者者の姿がありました。

2Fでは、美里町の新鮮野菜販売、わかくさの事業所紹介、

防災展示&抽選券の引き取りの仕事を行いました。

野菜販売を担当した人たちは、準備も手慣れたもので、職員と一緒にセッティングを行い、来たお客様に対してお辞儀をし、「いらっしゃいませー」と大きな声を出しました。今回は、焼いもの販売もあったので、音楽を流しながらの接客という新しいことにもチャレンジしました。

みんなの発表

わかくさの事業所紹介の担当は、日頃やっている仕事(ボール拭き、ウエスタたみ、新聞広げなど)を得意げに来場者に見せている姿が印象的でした。

防災展示&抽選券の引き取りの担当は、来場者がなかなか来なかったもので、「こちらで防災展示やっております!」、抽選会はこちらへ」と書かれた紙を持って呼びかけを行い、そのかいもあり、少人数だが足をとめ、利用者と話をする場面がみられました。

最後に、大抽選会を盛り上げたのが、わかくさの自治会長、副会

長、書記の3名!! 抽選会も後半に差し掛かり、引いた抽選券を読み上げると、なんと! 書記の名前が呼ばれるというミラクルが!!! 職員もこれには思わず「みなさん、抽選はガチですよ。」と客席の笑いを誘いました。

今回、たくさんの利用者が、いつもと違う環境で仕事をし、そして、まつりを楽しむということに取り組みました。準備も忙しかったが、来てくれた人たちとつながること、何よりいつもとは違う利用者の笑顔、真剣に取り組む姿に出会えたことが素晴らしかった。みなさん、本当にお疲れ様でした。野上

ゆうゆう

24時間テレビ

福祉車両贈呈式

ゆうゆうでは今年、24時間テレビから福祉車両を寄贈してもらえ、ことになり、12月14日の贈呈式に、ゆうゆう代表として草柳所長と利用者自治会会長山本さんが出席してきました。

出席した感想など、山本さんにインタビューしました。インタビュー



は、職員がキーワードをいくつか出し、それを山本さんが選んでいくという方法で行いました。

Q① 最初に贈呈式について知った時どう思いましたか?

A 最初はこういうものか分からなかった。会長だからゆうゆう代表として行くかと思った。NEWSがいるかと思った。

Q② 実は贈呈式直前に体調を崩していたので、病気のときは贈呈式をどう思っていましたか?

A 周りから行けないんじゃないかと言われて心配になったが、きつと行けるかと思っていた。

Q③ 出席出来てどうでしたか?

A 「自分が」会長だから行けて安心した。

Q④ 式典の会場の様子は?

A 広がった。人がたくさんい

た。テレビカメラもあってびっくりにした」 アナウンサーはTVで見たことあって、かわいかった」

NEWSが出てくるかと思っていた 結局登場はなし」 「収録をもちろるときは) 緊張したけど頑張ろうと思った」

Q⑤ 車をもったら何に使えそうですか?

A 何を運ぶか分からないけど、役に立ちそうだと思う」

Q⑥ 募金をしてくれた人たちに伝えたいことはありますか?

A ありがとうございます」

Q⑦ 応援してくれる人たちにどんなゆうゆうを見せていきたいですか?

A みんながたくさんお給料をもらえるようにがんばる」 ゆうゆうの自治会でも募金などができるとよい」 みんなの役に立てるゆうゆうにしたい」 浜田

わかくさ会まつりへの挑戦!

かがやき

今回のまつりでかがやきの出し物としてどんな物がいいかを利用



恋するフォーチュンクッキー」と「ペビローテーション」の2曲を踊ることになりました。決まったのが10月で本番まで2か月ほどしかありません。ステージ発表のダンスの振り付けを覚える為、利用者の皆さんと職員も一緒に頑張って必死にダンス練習をしました。

ダンス発表の成功に向けて

全体でダンス練習と簡単に言っても色々な人がいます。そんな中で漠然とダンス練習をやっても効果は薄いものでした。そこで利用者の皆さんを4つのグループに分けて、少人数での練習を始め、マンツーマンでの練習にも取り組んでいきまし



ました。すると、少しずつ

者の皆さんと話し合いを行った結果、過半数の方がダンス」と答えていました。その中でも「AKB48」のダンスを踊りたいという声が多く、

達成感と喜び

まつりは大成功で、利用者の皆さんの笑顔もたくさん見ることが出来ました。

今回のダンス練習からみんなまでひとつのことを成し遂げる達成感と喜びをかがやき全体で感じるこ

グリーングラス

からのお願い

新年を迎え、グリーングラスでの新しい試みをお伝え致します。と、夢と希望に満ちた新年のあ

さつをお伝えしたい所ですが、現在のグリーングラスでは難しい現状です。

週末開所の見送り

まず今年度事業計画に挙げておりましたが、下笹目の週末開所ですが、年度内の見通しが立たない状況となりました。それでも先月まで、隔週での開所を続けておりましたが、宿直者の退職による職員不足の恒常化や、法人職員の応援勤務にも限界が見え、今年度の週末開所は見送ることになりました。

宿直者の募集

宿直者を含めた職員募集は常に行っておりますが、グループホールの勤務時間が夕方〜夜間〜朝と変則なことや、夜間は一人での勤務になり、障害者への理解も必要となる為、なかなか職員が集まらないのが現状です。

今年度末には2名の宿直者が退職予定です。下笹目の週末開所どころか、グリーングラス全体の運営に影響が及びます。わかくさの風をお読みになっていらっしゃる方、皆さまにお願いです。グリーングラスの現状をご理解頂き、宿直者を始め、職員のご紹介をお願いいたします。

和田

わかば

暮らしやすい地域づくりへ 勉強会の取り組み

わかくさ会の「地域生活委員会」として、平成26年度より実施している「親の5年後、こどもの5年後一緒に考えよう！」と題した勉強会も13回実施してきました。参加者はわかくさ会の関係者だけでなく、放課後デイサービスを利用してきている児童のご家族等にも広がってきており、様々な年代の方が情報交換をしたり一緒に考える機会となっています。更に今年も番外編として、立教大学准教授山田氏と共同研究者である谷川弁護士による勉強会も予定しております。



当事者や家族の思いを届ける

山田氏らは、知的障害のある方の将来の生活に関する支援を充実させるための研究をしておりますが、当事者やご家族が日々感じている「思い」や「欲しい支援」などの声を社会に届ける活動の一環として勉強会を開催しています。今まで実施してきたわかくさ会の勉強会も、将来の「生活の安心と豊かな暮らし」のために様々な制度を学んだり、当事者や家族の思いを話し合ってきました。その思いは同じということで、地域生活委員会としてコラボさせて頂くことになりました。

きつかけは「らやき」駅前清掃

ゆうゆうのどらやきや駅前清掃をしている利用者の姿を見てわかくさ会を知りお声をかけて頂いたのですが、この出会いをきっかけに第15回「成年後見制度について」の勉強会の講師も谷川弁護士にお願いしています。誰もが暮らしやすい豊かな地域づくりのために、今後もこの繋がりを大切にしながら勉強会を充実させ、皆様の思いを届けていきたいと思っております。番外編勉強会は3月13日(丹)を予定しております。詳細が決まり次第案内させて頂きます。お問

い合わせはわかば (048-446-5785)にて受け付けております。(猪野)

みなみ・就労支援C

共感のちから

6i調査の結果

平成28年12月13日に埼玉労働局から、28年度の埼玉県内の企業の雇用状況を取りまとめた、いわゆる6・1調査の結果が公表されました。

主な内容として、民間企業の雇用障害者数は前年に比べ3.9%(※6人)増加していることや実雇用率は前年に比べ0.07ポイント上昇し、1.93%になり全国30位となりました。埼玉県では着実に実雇用率を伸ばしています。

相談者の横の繋がり

私たち、就労支援センターとみなみでは、昨年もそうした働く障害のある方を支えるため、個別の相談とは別に、サロン等の当事者活動も実施してきました。精神障害・発達障害のある方を対象にして取り組んでいる湧々サロンでは、当初は相談者が集まれる場を作り、横の繋がりを作りたいと考えてい

ました。自分たちの居場所や所属感を感じてもらうことで、明日への活動のモチベーションとなることを期待していました。

当事者同士の共感

ある日のサロンで、職場での疎外感という話題になりました。障害者雇用での仕事内容、同僚・上司との関係など様々な場面で疎外感を感じるという内容でした。まさに、当事者だから感じる思いではないでしょうか。他にも、障害者手帳を取得した時の受け止め方、恋人ができたときに病気を伝えるか、高齢な親との関わりなど、日々の日常での思いや悩みが話合われました。

そこには、今まで支援者には見せていない表情や話題が沢山ありました。支援者として話を聴きながら、当事者同士の互いに共感できるからこそ、相手に伝える・伝わる「ちから」を感じました。今年もどのような方向でサロンが展開して行くのか分かりませんが、みなさんの「ちから」を見守っていききたいと思います。(酒井)



研修報告

障害児・者 実践交流会

テーマは『幼児期から親なき後までを見据えて』

平成28年12月11日 幼児期から親なき後までを見据えて』をテーマに 障害児・者実践交流会」が戸田市商工会館多目的ホールで開催されました。

この実践交流会を行うための実行委員会を立ち上げたのは7月でした。そして、その7月には、あの「津久井やまゆり園」の悲惨な事件がありました。

犯人は 重度の障害者は社会に不要である」という考えをもっていました。それは、大きな間違いで、どんなに重度の障害があっても人としての権利と尊厳が守られ誰も当たり前前に生活できる地域をつくっていかなくてはなりません。そのために、私たち支援者はどうすればいいのか？ はからず

も、そうしたことを考えながら、企画、検討を行いました。

3名の「家族の思い」

今回は、障害児・者のご家族の方3名にお話をいただきました。それぞれに訴えたいことがあり、皆さん熱く語っていただきました。その中でも共通していたのが、将来への不安と社会資源の不足でした。私たちは、こうしたご家族の思いや願いをきちんと受け止め、支援をしていく必要があると思えました。

その後、あすなる学園」の荻原さん、ベストキッズとだ」の岡崎さん、障害者生活支援センターわかば」の猪野さんによる実践報告がありました。3名共、自分の仕事に誇りをもち、悩みながらもより良い支援を追及している姿が浮かんでくる発表でした。

今回で3回目の実践交流会でしたが、当初、2つの団体で始めた実行委員会も、昨年は4つ、今年は6つの団体と着実に広がりを見せています。こうした繋がりを更に広げ、本当に誰もが安心して生活できる地域社会をつくっていきたいと思います。

研修委員 菊地)

虐待防止・権利擁護への取り組み

法人全体での虐待防止研修

11月21日に法人全体で虐待防止研修を実施しました。今年度も社会福祉法人ささの会から長岡明美氏、竹野谷秋氏にお越しいただいて、虐待防止や権利擁護、利用者の方への取り組みについてお話を伺いました。また、グループワークにてロールプレイを実施しました。

基本的な虐待の分類や埼玉県の虐待の状況、報道にあるような他事業所の虐待事例等、あまりの状況に目を背けたくなるような内容もありましたが、職員それぞれ真剣に話を聞き、現状を受けとめました。

グレーゾーンの話し合い

その上で、ロールプレイを行いました。昨年以上に力を入れたロールプレイが各グループで行われました。本人、職員などの役割を交代



で行う中で感じたことを出し合い、何が虐待につながるのか」各事業所での

グレーゾーンと思われることは何か」意見を出し合いました。

最後に、利用者自治会の運営についてや、利用者自身が気づくための取り組みについて知ることが出来ました。また、相談支援の中にも虐待は潜んでいる可能性があると感じることが出来ました。

これからの対応

今回の研修をもとに、出された意見等から各事業所で虐待やグレーゾーンに対して、どのようにしていくか話し合っていきます。利用者の皆さんが自身の権利について考えることの大切さや、職員自身も日々の支援を確認する機会となりました。今後も真摯に虐待防止・権利擁護に取り組める法人になるよう、全体で成長していくことを目指していきます。

研修委員 宮國)



表現活動

第7回埼玉県障害者アート企画展 『FUS-SAITAMA+10展』終了しました!

12月7日〜12月11日の5日間、埼玉県立近代美術館で今年も埼玉県障害者アート企画展が開催されました!

わかくさからは今村明義さん・柴可南子さん・田中貴之さん、ゆうゆうからは斉藤勇真さんの作品が入選しました! 今年の入選者4名のユニークな共通点として「画用紙に描いた作品ではない」という点があります。展示された作品の素材は、木の枝であったり、ビニール袋であったり、粘土であったり、ティッシュペーパーであったりします。戸田わかくさ会の表現活動支援で大切にされてきた 本人の生活に結びついた表現行為」がこうして高く評価され、このたび一、三〇〇人を超えるお客様の目に触れたこと、大変嬉しく思

います。ご来場頂いた皆様、ありがとうございました!

また、今年の埼玉県障害者アート企画展では「展覧会へ行っていろいろな人の作品を見る」という活動をわかくさもゆうゆうもしており、各々の利用者さんが自分の気に入った作品を見つけていたようで嬉しかったです。

今回の展覧会を開催した埼玉県障害者アートネットワークMAP±0は、平成29年2月2日〜2月11日に川口・川越・春日部で3ヶ所同時に展覧会を行います。詳細はアートセンター集のホームページ <http://artcenter-syu.com/> に掲載されますので、こちらもぜひ期待ください!
わかくさ清水



「作る」時間だけでなく、いろいろなものを「鑑賞する」時間も、人生の質を豊かにするには大切です。何かに触れ、気持ちがあ動かされれば、有意義な時間です。

書「わかくさ」をいただきました!!

理事小山さんご夫婦の橋渡しで、中江星雪さんより、ご自身が揮毫された「わかくさ」2点をご寄付いただきました。この2点は銀座の鳩居堂の展覧会に出展されていたもので、来場者の方から多くの賞賛をいただいた作品です。中江さんは子どもの頃から書道を始められ、今に至っております。中江さんは後援会会員で長く戸田わかくさ会を応援していただいています。わかくさの玄関口に飾ってありますので、是非、みなさんもご覧になっていただければと思います。利用者、職員一同がんばります。ありがとうございます。



(中央が中江さん右が小山理事ご夫婦)

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり

(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021 戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

(編集後記)

新年明けましておめでとございます。

本年も「わかくさの風」をよろしく願い致します。

風邪が流行っております。ご自愛ください。

(滑川)

予定・行事

【1月】

21 (土) 成人を祝う会

【2月】

18 (土) 第14回「親の5年後 子どもの5年度一緒に考えよう!」勉強会 13:30~わかくさ

問合せ: 048-446-6785 (わかば)